

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790400034		
法人名	医療法人社団 大杉脳神経外科医院		
事業所名	グループホームまおの里		
所在地	香川県善通寺市大麻町2080-1		
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果市町受理日	令和5年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、ご家族様のお話を傾聴し不安を取り除き入居者一人一人ができる事に目を向け、生き生きと過ごしていただけるよう支援しております。コロナ禍でもなるべくご家族様とお会いできるよう、十分な感染対策を施したうえで、窓越しに対面してお話ししていただけるようご案内しております。また、ホーム内に閉じこもらないように散歩しながらホーム外の方と会話をしたり、今の機能を落とさないよう毎日の生活の中で機能訓練に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所のある一角は法人の医療機関や福祉施設があり、医師も気さくに事業所に顔を出されており、連携がしっかり取られている。利用者は、医師や職員との会話を楽しみにされており、家庭的な雰囲気の温かな事業所である。生活自体がリハビリの機会ととらえており、利用者の出来ることに着目した活気のある支援が行われている。外気浴や散歩も行われ、近くの農道を歩き、近所の人と交流するなど、自宅にいる時のような生活継続が実現されている。室内は季節の草花や手作りの作品などが飾られ、癒しの空間となっている。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても生き生きとした楽しい時間を過ごす力を持っている。その力を引き出すことが我々の役割であることを目標に、法人の運営理念と共に毎年法人として標語を作成し、毎朝朝礼時・ミーティング時に唱和している	理念は継続され、事業所内では毎年職員が考えた目標を掲げて、実践がなされている。朝礼やミーティングで唱和され、管理者や職員は意思統一を図り協働している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館へ入居者の方の作品の掲示や運営推進会議を通して情報を集め、積極的な交流を目指している	自治会や地元の学校、公民館活動と連携して地域との交流が図られている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期便や運営推進会議を通じて情報を発信している。コロナ禍前は中学生の職場体験を受け入れグループホームの事を知ってもらえるよう努めていた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍前は利用者の日常生活の様子を写真や動画で、又実際の活動状況を見てもらっていた。最近では2ヶ月に1回内部開催し、議事録と資料を地域の民生委員、包括支援センター担当者、自治会長に提出し、意見を伺っている	運営推進会議では事業所の役割や活動を写真や動画を使い、話し合いがなされていた。コロナ禍では内部関係者で会議を行い、会議録や資料等は推進委員に提出され、意見が伺われている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの市担当者に運営推進会議に議事録を提出し、ご意見を伺っている。又、コロナの状況については市に連絡を取り、必要物品であれば市から提供していただけると聞いている	コロナ禍の連携として包括支援センター職員に運営推進会議の内容等報告がなされている。日頃からの関係作りにて相互理解が深められている。感染症予防や発生時の連携も確認がなされている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの際、身体拘束について理解を深めるよう努めている。又、2ヶ月に1度身体拘束委員会を開催し、直近はコロナ禍の為書類にて市担当者や民生委員の方にご意見をいただいている。また、玄関は最近の世情からも安全面を重視し、施錠させてもらっている。出来る限り散歩には出掛けており、いつでも自由に外出できるという気持ちを利用者の方と共有している	2ヵ月毎に身体拘束防止委員会を開催し、ミーティング等で周知し、外部に意見を拝聴している。個別の身体拘束の事例はないが、防犯等の理由での玄関の施錠への対応として、外へ出掛けたい素振りがみえた際には、散歩に出かけるなど個別の対応をして、いつでも外出できるという気持ちのケアもなされている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングやカンファレンスにて話し合う機会を持ち虐待防止に努めている。また、日頃から利用者様の状態観察や入浴時の皮膚観察等気を付けている。職員も「ストレスチェック」などを気にストレスをため込まないようお互い助け合える関係づくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば参加し、情報共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い必ず同意を得られた上で契約している。又改正があった場合ご家族様に説明しご理解と同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	活動状況や行事予定は毎月の「まおの定期便」や月1回のご家族へのお手紙で報告させてもらっている。面会時や電話にて密に連絡を行いご意見ご要望をミーティング等で検討し、運営推進会議で報告している	玄関には意見箱が設置されている。ガラス越しの面会等に加え、家族には定期便や手紙が月1回発送されている。家族とは面会時や電話にて意見や要望を聞き取り、ミーティングで話し合い、運営推進会議などで報告・検討がなされている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を募集しており、毎月のミーティングで検討・共有している	職員の気づきやアイデアや意見はいつでも受け付けられており、毎月のミーティングで取り上げて検討がなされている。管理者も職員間も情報の共有に努められている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃からコミュニケーションをとり気軽に相談出来る環境を作っている。金銭面では介護処遇改善加算(Ⅰ)、特定処遇改善加算(Ⅱ)、処遇改善等ベースアップ加算を申請し分配している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外研修の情報を回覧し自主的な参加を促している。法人内研修には必ず誰かが参加し、研修後は資料の回覧にて情報を共有している。また、資格取得に向けての「助成金制度」あり、資格取得後は資格手当も支給している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加し、研修や交流会を通じて情報収集しサービスに生かせるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面会の機会をいただき、ご要望をお伺いする等関係作りに努めている。担当者会議、ケアカンファレンスを通して職員で情報共有しホームに馴染めるまで「気配り目配り声くばり」し、安心して生活して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場から本人のホームでの生活に不安な事、心配な事をお伺いし、ご家族にも安心してもらえる関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向をしっかりと伺いし、法人内で他のサービスも含めて検討し、本人とご家族の意向を反映したサービス提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動を通し、居場所や役割を理解していただくと共に信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一回ご本人から家族あてに手紙を書いて頂いたり、面会や電話を通して家族との交流を絶やさないよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人にはあらかじめ予約をいただいた上で感染対策を取り、面会していただいている	感染対策に配慮した面会の継続がなされている。また、関係が途切れないよう手紙や電話の取次ぎ等支援がなされている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の出来る事をしっかりと把握し、その力を生かせるよう家事やレクリエーション参加を促している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居時利用者様の状況や好みなどを詳しく情報提供し、いつでも相談できることを伝えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が個別に担当を持ち情報を収集し、毎月1回のケアカンファレンスにて共有・検討を行っている	個別に担当職員が決められており、日々の様子等担当を中心に記録されている。また、カンファレンスにて職員全員で話し合い、情報が共有されている。不明点などは本人や家族等に尋ね思いの把握に努められている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族より無理のない範囲でこれまでの生活歴などをお伺いし、経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動を記録し、利用者の持っている力をミーティングやケアカンファレンスにて情報を交換し把握に努めている(共有している)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームカンファレンス、担当者会議には本人・ご家族をはじめ、医師、看護師の意見も伺い作成している。毎月のミーティングにて職員の気づきを共有し、介護に反映できるように努めている	計画作成には医療関係者や本人・家族等の意見を伺い、チームカンファレンスも行われている。毎月のミーティングでは見直しやモニタリングを行い、現状に即した計画作りがなされている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに食事水分量、排泄状況を記録し、情報を共有している。状態に変化があればその都度申し送りノートに記載し、看護師にも報告し対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院併設である強みを生かし、主治医と共にその方の持つ機能を落とさないよう日々努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴を尊重し、本人の興味ある事を大切に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、主治医を確認し希望される医療機関を受診している	利用者や家族の希望に沿ってかかりつけ医が決められている。法人の医師の往診があり、ほぼ毎日状態報告して、利用者の心身の状態が把握されている。緊急時の医療連携体制も整えられている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段より看護師と連携し体調の変化があればすぐに連携病院へ連絡し、指示を仰いでいる。24時間医師・看護師と連絡が取れる体制にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関とは連絡を密にし、スムーズに対応出来るよう心がけている。又、情報提供書を作成し連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・主治医と話し合い、本人・ご家族に寄り添った対応を心がけている	利用者や家族には入所時より重度化や終末期の在り方の情報提供や話し合いがなされている。重度化や加齢に伴う状態の変化の際には、その都度検討がなされており、家族や本人の意向に沿う支援が心掛けられている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	バイタルチェック・状態の把握を行い主治医に報告して指示を仰いでいる。医師・看護師・管理者とは24時間連絡が取れる体制を整えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。夜間でも迅速に行動できるよう避難手順確認している	周辺の事業所と連携した避難訓練が実施されている。多様な災害や昼夜の訓練をして職員はシミュレーションを繰り返している	より事業所の防災力を高めるため、また地域防災へも寄与できるよう、地域住民等も巻き込んだ共同避難訓練の実施や相互扶助の有り方検討への発展に期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや言動で配慮すると共に個人情報の取り扱いの徹底に努めている	和気あいあいした雰囲気の中で、一人ひとりの利用者に温かく接せられている。また、センシティブ情報等には、しっかりと配慮した支援がなされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりから思いや希望を探り、その思いを尊重している。生活の中で自己決定できる場を提供している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちに配慮し、無理強いする事なく、自身のペースで過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用し希望に添ってカットしていただいている。入浴後には鏡を見ながら髪を整えて頂き、化粧水で肌の保湿をしていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染対策の為盛り付け等は職員が行っているが、一人一人の好みを把握し、嫌いな物等はメニュー変更している。食器拭きやトレイ拭きなど出来る事を利用者さんで行っている	コロナ禍以前は、盛り付けや準備・片づけに職員と共に利用者も参加されていた。職員は個々の好みを把握しており、メニュー変更等配慮がなされている。食事中もあたたかい雰囲気である	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する厨房から栄養バランスを考えたメニューが提供されている。食材や形態の変更も個別に対応している。食事や水分が不足している方には高カロリー食品やお好きな食べ物飲み物を用意するなどの工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアに加え、毎月必要に応じて訪問歯科の診察を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い数時間おきに声かけ誘導を行っている。又個人の排泄パターンを把握して声掛けを行うよう努めている。その方の状態に応じ、PTイレやオムツも組み合わせながら可能な限り残存機能を活かし通常のトイレでの排泄を心がけている	トイレでの排泄を目指し、個々の排泄のパターンを把握した声掛けや誘導が行われている。利用者の残存機能に着目し、必要な部分の支援が心掛けられている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションに運動や歩行訓練を取り入れ排便を促している。又、主治医とも排便状況を共有し随時対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	洗身等自分で出来る所はやった頂き、出来ない所は介助見守りを行っている。入浴タイミングは本人の状態と気分によって適宜変更している	入浴が楽しめるよう一人ひとりにゆっくり時間が取られている。本人の体調や意向に沿うタイミングも大切にされている。入浴できないときは更衣や清拭・足浴など代替策も実施されている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後等休みたい場合は本人の意思を尊重して休んでいただいている。夜間入眠のタイミングも利用者様に選んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は職員全員が把握出来るよう申し送りやミーティングで共有している。変化があればその都度主治医・看護師に報告し対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を生かして家事やクラフト、レクリエーションに取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴や散歩を行う時間を増やしている。コロナ禍の為ドライブのみではあるが、季節によって外出支援も行っている。	天気には事業所周辺で外気浴や散歩をして、気分転換している。感染対策に留意しながら、季節ごとにドライブ外出も実施されており、四季の移ろいを楽しむ機会となっている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭所持はトラブルの原因となる為、いづらかお預かりさせて頂いて必要に応じて、ご自身でお使い頂けるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回ご本人の書いた手紙、ご本人の写真、職員の書いた近況報告をお送りしている。希望があれば電話の利用もご案内している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる掲示物を利用者様と共に作成し掲示している。又、草花を飾り癒しの空間を作れるように心がけている	リビングは広く日当たりが良い。一角には和室がありこたつも設置できる。食堂は居心地がよく、壁には四国遍路の経路図や利用者の手作りの作品等が飾られている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソーシャルディスタンスを保ちつつ、気の合う方同士でお話出来るよう工夫している。テレビ前は集まりやすいよう広く空間をとっておりレクリエーション等に活用している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、これまで使用されていた馴染みの物をご家族に頼んだり、ご家族の写真を飾ったり、心地よく過ごせる雰囲気作りに努めている	個室内に私物を持ち込み、それぞれ自分好みに配置されている。洋服を飾ったり、自分の作品を並べたり、利用者個々が落ち着けるよう配慮がなされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室にわかりやすいよう大きな字で表示している。座席や居室には名前を表示したり、個々の状況に応じて配慮している。フロア全体がバリアフリーで手すりが設置されており、廊下を安全に歩行できるようになっている		